



岐阜県感染症発生動向調査週報

Gifu Infectious Diseases Weekly Report

平成 29 年 7 月 14 日 岐阜県感染症情報センター（岐阜県保健環境研究所）

2017 年第 27 週

(7/3~7/9)

6 月報合併号

- 咽頭結膜熱は減少傾向がみられるものの患者数の多い状態が続いており、恵那保健所管内で引き続き警報レベルとなっています。
- 手足口病は前週の 1.7 倍に増加し、過去 5 年間の同時期と比較して最も多くなっています。
- 海外への渡航者が増加する夏休みには、輸入感染症に注意が必要です。→トピックス

■ 定点把握対象疾患の発生動向（インフルエンザ 定点:87 か所、小児科定点:53 か所、眼科定点:11 か所、基幹定点:5 か所）

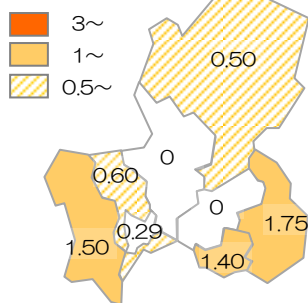
● 警報・注意報レベルの保健所がある疾患

レベル	疾患名	基準	該当保健所（定点当たり報告数）
警報レベル	咽頭結膜熱	定点当たり 3 人以上 (1 人を下回るまで継続)	恵那 (1.75)
注意報レベル	なし		—

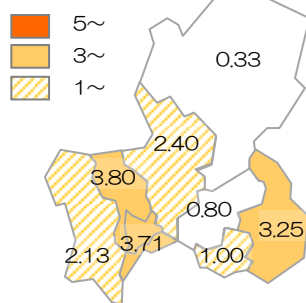
※定点当たり報告数が一定の基準を超えた場合、保健所単位で「警報・注意報レベル」を発信しています。
 警報レベルは大きな流行が発生または継続していると疑われることを、注意報レベルは流行の発生前であれば今後 4 週間以内に大きな流行が発生する可能性が高いこと、流行の発生後であれば流行が継続していると疑われることを指します。

● 注意したい感染症の保健所別流行状況（地図中の数値は定点当たり報告数）

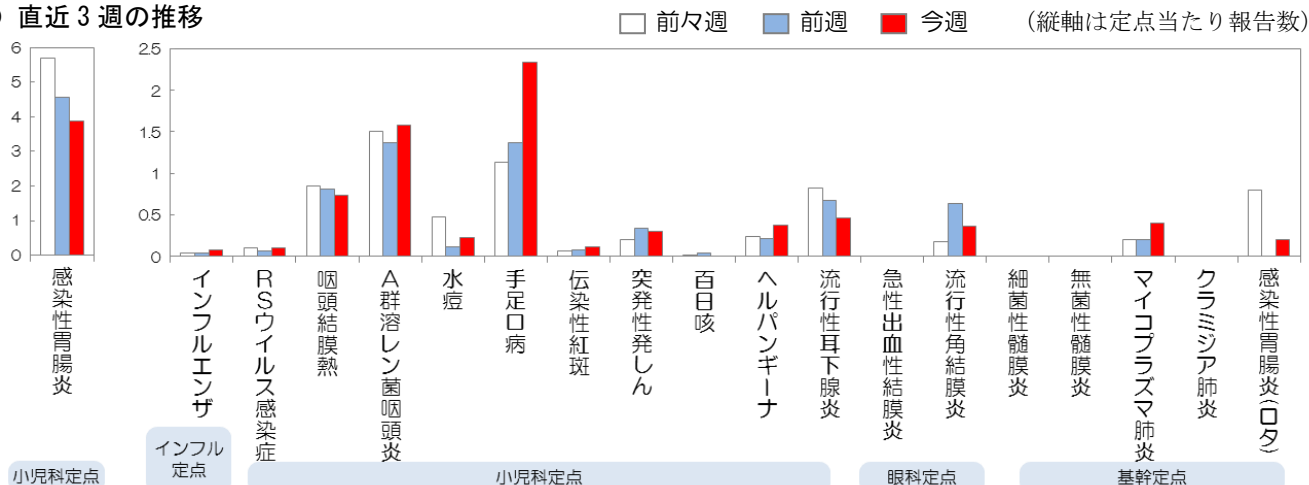
<咽頭結膜熱>



<手足口病>



● 直近 3 週の推移



■ 全数把握対象疾患の発生動向

● 今週届出分

- 1 類感染症：なし
- 2 類感染症：結核 12 例
- 3 類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 1 例
- 4 類感染症：なし
- 5 類感染症：クロイツフェルト・ヤコブ病 1 例、後天性免疫不全症候群 3 例、梅毒 1 例

全国情報は国立感染症研究所感染症疫学センターの HP をご覧ください。

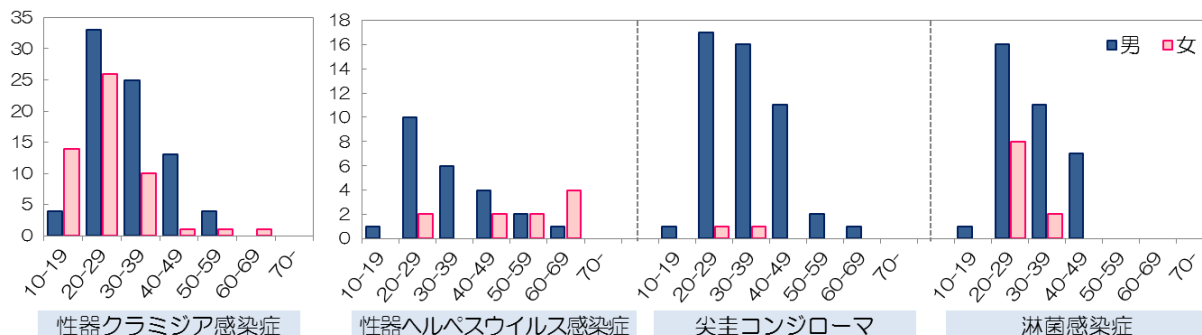
感染症発生動向調査週報 (IDWR) <https://www.niid.go.jp/niid/ja/idwr.html>

■ 月報告定点把握対象疾患の発生動向 <6月>

● 性感染症報告数（STD定点：15か所）

疾患名	6月	男			女		
		6月	5月	4月	6月	5月	4月
性器クラミジア感染症	28	15	12	13	13	7	6
性器ヘルペスウイルス感染症	5	5	4	3	-	1	1
尖圭コンジローマ	6	6	8	7	-	-	-
淋菌感染症	5	4	5	9	1	2	2

<性・年齢階級別報告数（2017年1～6月累計）>



（参考）全数把握対象の性感染症 報告数

疾患名	6月	男			女		
		6月	5月	4月	6月	5月	4月
梅毒	12	6	5	2	6	1	1
後天性免疫不全症候群	1	1	-	-	-	-	-

● 薬剤耐性菌感染症報告数（基幹定点：5か所）

疾患名	6月	5月	4月	3月	2月	1月
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	13	8	10	9	10	17
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1	-	-	2	-	3
薬剤耐性緑膿菌感染症	1	-	-	2	1	-

■ 病原体検出情報

● 医療機関から提出された検体の病原体検出状況（6月採取分、7月9日現在結果判明分）

臨床診断名	病原体名（遺伝子検出を含む）	検出数
咽頭結膜熱	アデノウイルス 2 型	1
手足口病	ライノウイルス	1
流行性耳下腺炎	ムンプスウイルス	1
流行性角結膜炎	アデノウイルス 56 型	1
無菌性髄膜炎	ライノウイルス	1
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	<i>Streptococcus pyogenes</i> T1 型	1
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T4 型	1
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T6 型	1
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T12 型	1
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T 型別不能	1
百日咳	百日咳菌	1
感染性胃腸炎	<i>Campylobacter jejuni</i>	1

※病原体検出情報の詳細については HP をご覧ください（毎週更新）。

<http://www.pref.gifu.lg.jp/kodomo/kenko/kansensho/kansensyo/byougentai.html>

全国情報は国立感染症研究所感染症疫学センターの HP をご覧ください。

感染症発生動向調査週報（IDWR） <https://www.niid.go.jp/niid/ja/idwr.html>

病原微生物検出情報（IASR） <https://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr.html>

■ トピックス

● 輸入感染症

◇ 輸入感染症の報告が近年増加しています

夏休みには、多くの方が海外へ渡航されます。近年、海外渡航者の増加に伴い、海外で感染症にかかり帰国する輸入感染症の患者が国内で多く報告されるようになってきました。

近年報告が増加しているのが、デング熱やチクングニア熱など熱帯・亜熱帯地域で蚊が媒介する感染症です。中でもデング熱は、昨年全国で300人以上の輸入症例が報告され、東南アジアでの感染者が多くを占めています。

麻しんは、日本国内では排除状態にあり、現在国内で報告される患者はすべて海外での感染例とそれに関連する国内感染例とされています。昨年は、輸入症例を発端とする複数の集団感染事例が発生しています。

また、赤痢、腸チフス、A型肝炎など水や食品を原因とする感染症や、梅毒、後天性免疫不全症候群などの性感染症についても輸入症例が毎年報告されています。

<県内の輸入感染症患者の報告（2015年～2017年第27週まで）>

年	疾患名	報告数	感染地域（推定含む）	主な感染経路
2015年	腸チフス	1	インドネシア	汚染された食品・飲料水の摂取
	アメーバ赤痢	1	カンボジア	
	デング熱	6	インドネシア(2)、ミャンマー(2)、フィリピン(1)、ブラジル(1)	蚊による吸血
	マラリア	1	タンザニア	
	後天性免疫不全症候群	1	タイ	性的接触
	ウイルス性肝炎（C型）	1	ベトナム	
	麻しん	1	中国	感染者からの飛沫・空気感染
	計	12		
2016年	腸管出血性大腸菌感染症	1	メキシコ	汚染された食品・飲料水の摂取
	E型肝炎	1	シンガポール	
	A型肝炎	1	ミャンマー	
	デング熱	3	スリランカ(1)、インドネシア(1)、フィリピン(1)	蚊による吸血
	マラリア	1	アンゴラ	
	レジオネラ症	1	ポーランド	汚染水のエアロソル吸入
	アメーバ赤痢	3	タイ(2)、韓国(1)	汚染された食品・飲料水の摂取または性的接触
	侵襲性髄膜炎菌感染症	1	台湾	感染者からの飛沫感染
	後天性免疫不全症候群	5	ブラジル(4)、タイ(1)	性的接触
	梅毒	1	ギリシア	
	計	18		
2017年 (1～27週)	腸チフス	1	インド	汚染された食品・飲料水の摂取
	デング熱	1	フィリピン(1)	蚊による吸血
	アメーバ赤痢	1	ラオス(1)	汚染された食品・飲料水の摂取
	ウイルス性肝炎（B型）	1	台湾	性的接触
	計	4		

輸入感染症対策として、渡航者本人が渡航先の情報を正しく把握し、感染症予防のための行動がとれるよう、引き続き、渡航者に対して情報発信と注意喚起を行っていくことが重要です。

★参考リンク

FORTH/厚生労働省検疫所 <http://www.forth.go.jp/>

予防のポイント

- 手洗いを徹底する
- 衛生状態の悪い地域では、生水、氷、カットフルーツ、サラダなどは避ける
- 肌の露出を避け、虫よけスプレーを使うなど蚊に刺されないようにする
- むやみに動物や鳥に近づかない